仁科先生との思い出

日本原燃株式会社
（名古屋大学仁科研究室１９８６年修了生）
牧　隆

不肖の教え子である私と先生との関係は、大学２年生後期試験の終了後、普段の不勉強および部活動並びに試験期間のインフルエンザ罹患により、選択必須科目の単位が僅かに不足した立場であったところから始まりました。その後の研究室配属は、希望する研究室の先生との個別交渉で了解を得るという大学側からの条件で、先生をお訪ねしたのです。その際に先生は、先入観のない、人への興味に満ちたまなざしで、私に話を促していただき、最後は快く配属を認めていただきました。これが、私にとっての先生への感謝の始まりでした。

配属後は、やはり私の力不足から、それほど優秀な学生には映っていなかったのではないかと思われ、厳しい指導を受けることは多々ありましたが、それでも先生に親しみと尊敬を増し、修了まで漕ぎつけられたのは、先生の粘り強いご指導の賜物だと思っています。

研究室時代初期の先生から受ける当初の印象は、研究室での研究活動がほとんどだったイメージでしたが、その後先生が、学内外の組織、研究機関等で様々な課題や社会的要請に関わられる中で、産業的視野を研究室に持ち込まれ語られるようになった記憶があります。折しも原子燃料サイクル実現への機運が高まる時勢であり、臨界安全ハンドブック作成に関わる議論や、原子燃料サイクルの関連機器に親しみを持たせる話をしていただきました。私にとっては、単なる研究テーマが現実に結びつく切っ掛けを与えていただいたと思っています。

もちろん、研究室時代は学問的な思い出だけでなく、研究室の行事として研究室メンバーと一緒に旅行に出掛けたり、また学科内テニスのダブルス大会に先生とペアを組んで参加して好成績を得たり、ということも懐かしい思い出です。

就職は、先生の人脈に乗っかった形で実現できたことも非常に感謝しています。その後の業務の中で、案外研究室での知識や経験が生かされる場面が多かったのではないかと思っていて、このことは今でも続いている感覚です。臨界安全は計算物理的にも親しんだことで、情報処理技術など関連技術への抵抗感があまりないのも、その感覚の一面だと思います。そんな中で、都内路上で偶然先生にお会いし酒を酌み交わしたことから、先生を関係先にご案内する機会を得て、その途中で一緒に観光したり温泉に入ったりしたこと、その後の訪問が上手くいって、先生と関係先から感謝をいただいたことも忘れられない思い出です。

また、プライベートでは、出向中の私の仲人を引き受けていただきました。先述のように、研究活動への姿勢は明確でも、当時一般的であった仲人のような俗世的雑事を引き受けられないと聞いていた先生が、研究室卒業生の仲人を引き受けられるようになった時期であ

ったことが幸いしました。当時出向元か出向先かのどなたに仲人をお願いしようかを悩み、結局先生にご相談したタイミングと一致したのです。後から伺うと、以前はお願いされても引き受けなかったが、ご自身のお立場を考え直して引き受けるよう考えを改められたと伺い、研究以外の面でお考えを 180 度変えられたことと、感慨深く記憶しています。

仲人として奥様とともに、非常に私たちに手厚く対応していただき、無事結婚式を執り行うことができて、亡くなるまで我が家では感謝の念に堪えませんでした。先生のご葬儀の際に、仲人をされた挨拶の原稿や披露宴の席次を全て大切に取ってあったと伺い、仲人をされた皆さんにも誠意を持って思い出にされたことが目に浮かび、素晴らしいお人柄が偲ばれました。

研究室の OB 会は比較的継続的に開かれていて、またこれとは別に先生と一緒に食事をすることもあり、名古屋大学退官後の活動からお孫さんまで話題の幅が広がりましたが、ご病気やコロナの影響から次第に直接お会いする機会がなくなったのは残念でした。それでも年賀状等で私の職場の話をするにつけ、ご返信をいただけて有難かったことを覚えています。

私に限らず、多くの方々が、先生への業績を賞賛され、お人柄にも触れて、感謝に満ちた言葉をお持ちだと思います。私のような者が、その一端でも語り切れるとは思いません。しかしながら、原子力分野、教育分野などの社会的課題の行く末も、こんな教え子のことも、きっと温かく見守ってくださる気がしています。謹んで、ご冥福をお祈りいたします。